

いっしょでんわ

熊本県立
芦北支援学校



第178号

令和4年12月23日

発行

紙面内容

- ◎ 修学旅行
- ◎ にこにこふれあい発表会
- ◎ 各分掌部ごとの取り組み
- ◎ 各行事での生徒の活動等

修学旅行

本校 中学部 高等部



校長

富永

佐世子

感謝の気持ちを忘れない

「人生は「ありえねえ」ことの連続」

師走に入り、本格的な冬の到来を感じる季節になりました。依然としてコロナウイルス感染症が蔓延していますが、手洗い、うがい、マスクの着用などの感染症予防に一層努めて参りたいと思います。

さて、本校では「ありがとう」という言葉がよく飛び交っていますので、「ありがとう」について考えてみたいと思います。「ありがとう」は、英語の「サンキュー」とは違います。「サンキュー」は、「あなたに感謝する」という意味ですが、「ありがとう」は日本の古語で、「有ることが難しい」と書き、「めったにない」ことを意味しているそうです。今風に言えば、「ありえねえ」となります。

日常で当たり前だと思っている様々なことは、実は「ありえねえ」の連続なのです。私たちが今日一日を快適に生きられるのは、いろいろな物や人に支えられて自分自身の命があるということですが、世の中を正しく観察したら見えてくるはずだと思います。それが見えた時、心の底から感謝の念が湧き上がってくるのではないういでしょうか。その為、感謝は人から強制されるものではありません。親が子どもに「感謝しなさい」といっても無理なものです。私もそうでしたが、子どもができて、子育ては夜も眠れないくらい手がかかるのだと分かって初めて、親の恩が分かり、自分の内側から自然とありがたいう気持ちで湧いてきました。感謝は何ものにも代え難い幸せな感覚です。本当に心の底から感謝した時、涙が出て何とも言えない喜びが感じられます。感謝を感じられる人は幸せな人です。感謝を感じられない人は幸せな人です。皆さんも是非、幸せな人になっていただきたいと思えます。

10月6～7日の一泊二日の日程で中学部高等部合同の修学旅行を実施しました。一日目はJALシティ宮崎のレストランドで昼食をとり、宮崎科学技術館での見学体験学習に取り組みしました。科学の実験を体験したり、プラネタリウムで星空を鑑賞したりすることができました。二日目は、青島で散策を行い、鬼の洗濯板を見て、自然の雄大さを感じる事ができました。宿泊したシエラトングランドオーシャンリゾートでは、部屋からは太平洋の水平線まで眺められ、豪華な食事を堪能することができました。コロナ禍でしたが、添乗員さん、運転手さん、ホテルのスタッフさんなど多くの方々の細やかな気配りのおかげで、安心して旅行を楽しむことができました。最高の思い出となる修学旅行となりました。(園山)



にっこにっこ

ふれあい発表会

「笑顔元気みんなーっ！ 1. 2. 3ダー！」

児童生徒みんなで出し合っ
て決定したスローガンを合
言葉に、今年は3年振りにご
家族の応援を受けながら開催
することができました。

各学部、訪問教育の特色あ
る発表に加え、「にっこふれ
タイム」では、開閉会式の準備や進行
に取り組んだ児童生徒会、めぐりプ
ログラムの文字を書いた生活係、見
童生徒全員で作り上げたテーマ看板
と、かかわりの少ない他学部の仲間
達とふれ合いながら、より一体感の
ある取り組みとなりました。



また「にっこにこ作品展」では、
アートトレインや学部の作品、分教
室の作品も出展され、一段と賑やか
な展示となり、これまでの学習の成
果を思う存分
発表すること
ができました。
みなさん、応
援ありがとうございました。
（猪木）



『ワクワク げんき おおきなかぶ！』
小学部では、7人の子どもたちが自分の得
意なことや頑張っていることを披露しました。
60cmの高さのおにぎり抜き、取っ手の箱開け、
視線入力でのかぶクイズ、音楽を奏でるかぶ
ゴール、大中小のかぶの型はめ、ひまわりの
描画、かぶの作文等、頑張り
を発表し、かぶの土を取りま
した。7人で力を合わせてか
ぶを引っ張り、見事、抜くこ
とができました。



今年の高等部は、「科学
にチャレンジ！」のテーマ
の下、修学旅行で見学した
宮崎科学技術館の展示も参
考にしなが、自分たちに
できる科学実験に挑戦しま
した。
当日は、2名の欠席があ
り一人の実演になりました。独自に配合した液
を使って、巨大なシャボンのリングツリーとバ
ブルマシーンによる虹色シャボン玉を作ること
に見事成功しました。また、欠席生徒の取組は
動画にて紹介したところです。和やかな雰囲気
の中、みんなの笑顔が輝く発表となりました。
高等部では、今後も様々な学習や体験にチャ
レンジしていきます。
（大瀬）



『ウルトラ中学部1・2・3ダー！』
中学部では、学校生活で頑張ったことを一人
一人、3位までのランキングで発表しました。
生徒の1位には「運動会単元で取り組んだ野球
のこと」「毎日車椅子をこいで図書コーナーで
本を借りたこと」「修学旅行のこと」が入り、
実演を交えて発表をしました。さらに、中学部
みんなが協力して頑張ったことの1位として園
芸活動を紹介し、工程に分かれて作業を実演し
ました。
みんな、練
習の成果を発
揮し、堂々と
自信を持って
発表すること
ができました。
（大谷）



今年度の訪問教育では「まあいいの
ち」の演奏に取り組みました。それぞれ楽
器を選び、2人パート、5人パート、全員
でのパートの練習をしました。スイッチを
操作したり、手や指でiPadや楽器に触
れたりするなどの方法で楽器を鳴らしまし
た。各学習場所で演奏した映像が、5人
パートや全員でのパートでは一つの映像と
なり、間接的ですが一緒に演奏し、素敵
なハーモニーを奏でるこ
とができました。
これからも、十人一丸
となって頑張ります！
（畠村）



各分掌部ごとの 取り組み

研究部 研修三昧

研究部では職員のニーズに応じた研修を計画し、日々の授業実践に生かしています。今年度は教材製作研修や、運動発達と認知機能、ICT教材などに焦点を当て、職員が学ぶ場を設けてきました。新たな知識や教材を得た後は授業に反映し、お互いに授業研究をしながら改善につなげています。日々頑張っている児童生徒に負けないよう、教師もまた勉強中です。(尾崎)



生徒指導部

「意欲的に取り組む児童生徒の育成」を目指し、児童生徒主体の活動を実践しました。本校では、「あしえんタイム」という時間を設けて、全校集会の司会進行や各行事での係活動(児童生徒会)、校内の衛生面や生活環境を整える取組(生活係)、個性溢れる新聞作り(新聞係)など、感染対策を行いながら取り組みました。また、高等部佐敷分教室では、生徒会、環境委員会、給食委員会、保健体育委員会のそれぞれが常時活動を実践し、クリーン作戦などの創意工夫ある活動にも取り組みました。学校全体を通して、児童生徒が意欲を持って主体的に取り組める活動をこれから行っていきます。(林田)

保健安全部 給食で地産地消

毎月19日前後に設けられている「ふるさとくまさんデー」の日には、熊本県内の特産物や郷土料理を取り入れた給食献立が提供されています。10月20日の「ふるさとくまさんデー」のメニューは「宇城地区の紹介」ということで、「びりんめし」(三角町)や「白玉汁」(小川町)などをいただきました。

この日は、給食前の時間に「ふるさとくまさんデー」についての説明の動画を観ることで、いつも以上においしい給食となりました。(工藤)



教務部 読書の秋

昨年度までは、コロナ感染症予防のため実施できていなかった絵本の読み聞かせを2年ぶりに再開することができました。隔週木曜日の午後、読み聞かせボランティアの立場さんにお世話になっていました。子どもたちは、この読み聞かせをとっても楽しみにしており、いつもキラキラした表情で読み聞かせを聞いています。

また、今年度は、図書コーナーが新設されました。新しい本がたくさんあるので、児童生徒たちもたくさん本を読んで読書の秋を楽しんでいました。(田端)



情報教育部

「授業でのICT活用」

現在、ギガスクール構想の元、児童生徒一人一人にタブレット端末が配付されています。主に「生活単元学習」や「教科学習」などいろいろな学習面で活用しています。本校では、iPadのアプリを利用して本を読んだり、自分で音楽を作ったりしています。佐敷分教室では、美術の時間にiPadで撮影した写真を元に絵を描いたり、現場実習報告会の資料を作成したりしました。今後も、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応えながら、活用を進めていきたいと思っています。(鳳凰)



進路指導部

佐敷分教室では、1〜3年生の全学年で9月26日(月)〜10月7日(金)の10日間、現場実習を実施しました。1年生にとっては、初めての実習で「やってみよう」のテーマで実習に臨みました。2年生は、通算3回目で自分の適性や興味を「見つけよう」がテーマでした。3年生は、「自分の進路をつかもう」で、卒業後に一般就労や福祉事業所で採用があるかを見極める実習となり、緊張感をもって、取り組みました。10月13日(木)は、現場実習報告会で、実習の成果や課題を発表しました。質疑応答では、後輩から先輩に、内容にたくさん質問し、関心をもつことができました。

今後は、事業所から学んだことや褒められたことを生かし、これからの学習に生かしてほしいと思います。お世話になった事業所の方々に心より感謝申し上げます。(中村)

あしえんアートレイン



肥薩おれんじ鉄道の車内に児童生徒が描いた絵画を彩る「あしえんアートレイン」は今回で10回目を迎えました。11月4日(金)には、本校と佐敷分教室の児童生徒会役員が佐敷駅へ行き、肥薩おれんじ鉄道の古森社長様に作品をお渡ししました。本校からは、視線入力で描かれた作品や、マーブルングの和紙を貼り絵にした作品など、様々な技法で描いた個性溢れる作品をお届けすることが出来ました。

佐敷分教室では「地域の皆さんに喜んでもらえる作品を作ろう」というテーマで作品づくりに取り組みました。構図や色を工夫して素敵な作品に仕上がりました！列車内がとても明るく、温かく感じられるようになったようです。
(園川・岩下)



芦高祭

11月11日(金)、芦北高校文化祭「芦高祭」がありました。今年度は、弁論大会、収穫感謝祭、芦北高校福祉科とのステージ発表があり、分教室と芦北高校との交流の大切さを改めて感じました。生徒の中には、ステージ発表の練習における福祉科生徒との交流を通して、

「芦北高校の生徒と友達になりました！」とうれしそうに教えてくれる生徒もいました。今後も継続して芦北高校との交流を行いながら、充実した学校生活を過ごしてほしいと思います。
(境野)



あしえんインフォメーション

○3学期の主な行事○

- ・始業式 1 / 10
- ・熊本県高等学校ダンス発表会 (分教室) 1 / 21
- ・芦北水俣地区しごと発見塾 (分教室) 3 / 7
- ・卒業証書授与式 (分教室) 3 / 2
- ・卒業証書授与式 (本校) 3 / 10
- ・修了式 (本校、分教室) 3 / 24
- ・退任式 3月下旬

地域支援

特別支援コーディネーターとして、近隣の小中学校へお邪魔すると、子ども達から「どこから来たの?」と尋ねられることがあります。「芦北支援学校だよ」と答えると、「知ってる!○○さんの兄弟が行ってる学校だよね」「転校した○○さんは元気ですか?」と返されます。その口ぶりから、支援学校を特別な存在として捉えていないことが伝わり、嬉しくなります。今後も支援を必要とする人が、最も適した学びの場を選ぶことができるよう、努力していきたいです。
(山中)



緊急時や災害時等に活用する一斉メール配信システム『あしえん安全メール』の運用にあたり、下記の2社からの協賛をいただいています。

- ゆめタウン八代 様
- 熊本日日新聞社 湯前販売センター 様

「いとでんわ」は芦北支援学校の情報発信紙です。地域と共に成長する学校でありたいと考えています。関係者の皆様、地域の皆様のご意見をお待ちしています。

また、芦北支援学校のホームページも是非ご覧下さい。

《御意見・問い合わせ》

TEL 0966-82-4627

FAX 0966-82-4606

MAIL ashikita-s@pref.kumamoto.lg.jp